

月刊

エルダリープレス

～シニアの快適生活を応援する～ シニアライフ版

第11号

2015年(平成27年) 7月号 第11号

(株)高齢者住宅新聞社 〒104-0061 東京都中央区銀座8-12-15
TEL.03-3543-6852(編集部) 発行人 高橋良江
http://www.koureisha-jutaku.com

— Elderly Press Newspaper —

第6回 LCCの普及で思っていること

今年を訪日外国人数が過去最高になり、新記録を更新中だそうである。行楽シーズンを迎えた地方の観光地だけでなく、都心も外国人があふれ、今さらですが東京は日本最大の観光地であったことに気がきます。

とくに中国や台湾など、アジアから来る人は急増しており、毎日のようにニュースで流れる国同士、緊張感や街ゆく人の感覚とずいぶん温度差のあることが実感します。こうした背景には、国内空港の整備がすすんだことからLCC(ローコストキャリア)と呼ばれる格安運賃の航空会社が日本にたくさん飛んでくるようになった経緯があります。

私はLCCをもっと高齢者にも使いやすいサービスとして提供してければ、介護で困っている家族を助け、身近な外出支援サービスを充実させていけると感じています。

日本には現在500万人を越える要介護高齢者がいて、その数はこれからさらに増えていきます。障害者手帳を持つ人と同じく、その数は合わ

公共交通機関、もっと使い易く

せると1000万人を超え、家族も含めれば国民の約2割があてはまります。こうした方は、旅行に限らず移動に対して何らかの障害があり、介助者の付き添いが必要です。ところが鉄道と同じで航空機を利用する際も、要介護高齢者には障害者手帳を持つ方のような割引運賃制度はありません。

最近トフレヘルパーの利用相談として増えたのは、都市に住む働き盛りの子供が高齢になった親を近くに呼び寄せたいというもので、核家族化がすすみ地方に残した親の暮らしの心配が家族の大きな問題となっているのがわかります。

しかし、地縁による人どうしの存在はとても貴重で、高齢の親を呼び寄せたところ友人もつくれず意気消沈して一気にボケさせてしまったという後悔も耳にします。

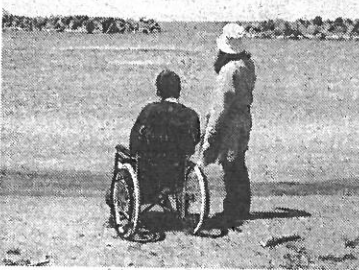
これから地方路線が整備され、さらに多くの外国人観光客が日本にやってくるようになりますが、外国人や障害者と同じように高齢者も気軽に利用できる制度の検討をすすめてほしいと思います。

安全! 快適!

介護旅行

SPIあ・える倶楽部社長
篠塚 恭一

1961年千葉県生まれ。大手旅行会社の派遣員を経て91年(株)SPI設立。ホスピタリティ人材の育成推進に携わる。95年よりトフレヘルパーの育成をはじめ、旅のユニバーサルデザイン、介護旅行「あ・える倶楽部」の普及に取り組み。06年NPO法人日本トフレヘルパー(外出支援専門員)協会設立。著書「介護旅行に出かけませんか」(講談社)他。(株)SPI あ・える倶楽部代表取締役社長。NPO日本トフレヘルパー(外出支援専門員)協会理事長

▲旅先で再会した恩師とのつもる話に花が咲く